



EIGHT PIECES. ONE FUTURE.

2026

5.24
Sun



5.31
Sun

Tour of Japan



Union Cycliste Internationale Asia Tour Class 2.2

SAKAI
KYOTO
INABE
OOSHICA
SHINSHU IIDA
FUJISAN
SAGAMIHARA
TOKYO

REPORT

<https://toj.co.jp/2026/>

TOJ



特別協賛

KEIRIN Official TV
SPEED
チャンネル

AliExpress



Facebook



X



Instagram



YouTube

ライブストリーミング
配信はコチラから



競輪の補助事業

この事業は競輪の補助を受けて実施いたしました。 <https://jka-cycle.jp>

Tour of Japan 2026



Union Cycliste Internationale Asia Tour Class 2.2

Contents >>>

実施概要・大会役員	2	第4ステージ Astemo 大鹿	12	記者発表、前日会見、各種会議	27
大会総評	3	第5ステージ 綿半 信州飯田	14	数字で見る	
TOJ2026 出場チーム・選手	4	第6ステージ スルガ銀行 富士山	16	ツアー・オブ・ジャパン 2026	28
第1ステージ チャリ・ロト 堺	6	第7ステージ AMANO 相模原	18	Sponsorship&Event Exposure	32
第2ステージ JPF 京都	8	第8ステージ SPEEDチャンネル 東京	20		
第3ステージ いなべ	10	TOJ2026 Results	22		
		Astemo TOJ Kids	24		
		PR、SNS／Publicity TV・Radio・ Magazine、Newspaper	25		

実施概要 Outline of Tour of Japan 2026

● 名称／ Event Title

ツアー・オブ・ジャパン 2026 Tour of Japan 2026
クラス:UCI アジアツアー 2.2 UCI Asia Tour 2.2

● 主催／ Organizer

自転車月間推進協議会 Cycle Month Promotion Council

● 主管／ Supervisor

ツアー・オブ・ジャパン組織委員会(事務局:一般財団法人日本自転車普及協会)
Tour of Japan Organizing Committee
(Secretariat:Bicycle Popularization Association of Japan)

● 競技主管／ Race Supervisor

公益財団法人日本自転車競技連盟 Japan Cycling Federation

● 後援／ Supported By

自転車活用推進議員連盟／自転車活用推進本部／内閣府／総務省／文部科学省／
経済産業省／国土交通省／消費者庁／東京都／品川区／大阪府／三重県／長野県／
静岡県／神奈川県／公益財団法人 JKA／健康日本 21推進全国連絡協議会

● 協力／ Cooperation

堺市／京都府／京田辺市／精華町／いなべ市／大鹿村(長野県下伊那郡)／飯田市／
小山町(静岡県駿東郡)／相模原市／東京港埠頭株式会社／GRAND CYCLE TOKYO

● 特別協賛／ Special Supporting Partners

株式会社SPEEDチャンネル／株式会社チャリ・ロト／AliExpress

● 協賛／ Supporting Partners

GachinkoCycleTV／株式会社NTNセールスジャパン／株式会社ゼンリン／
Astemo株式会社／More CADENCE／株式会社NIPPO／THULE／
ヒビノ株式会社／株式会社シマノ／株式会社キナン／株式会社マトリックス／
JA共済連／富士市サイクルステーションふじクル／一般社団法人ツール・ド・九州／
一般社団法人自転車協会／マヴィックジャパン株式会社／
株式会社オージーケーカブト／東京サンエス株式会社／メリダジャパン株式会社／
Global Ride／ダイドードリンコ株式会社／
大分市・OITA サイクルフェス実行委員会／株式会社SUBARU

● 出場チーム／ Participating Teams

全16チーム(海外7チーム／国内9チーム)

16 Teams(7 International Teams/9 Domestic Teams)

- TEAM UKYO (TUK／日本)
- ソリューションテック NIPPO ラーリ (TFT／イタリア)
- リーニン スター (LNS／中国)
- トレンガヌ サイクリングチーム (TSG／マレーシア)
- キナンレーシングチーム (KIN／日本)
- シーキャッシュ X ボディラップ (CBW／オーストラリア)
- Astemo 宇都宮ブリッツェン (ABZ／日本)
- VC福岡 (VCF／日本)

- ヴィクトワール広島 (VCH／日本)
- ソウル サイクリングチーム (SCT／韓国)
- 愛三工業レーシングチーム (ART／日本)
- シマノレーシングチーム (SMN／日本)
- スワット クラブ (SWT／イタリア)
- レバンテフジ静岡 (LVF／日本)
- 日本ナショナルチーム (JPN／日本)
- ウズベキスタン ナショナルサイクリングチーム (UZB／ウズベキスタン)

● チーム編成／ Team Composition

9～10名(選手6名／監督1名／メカニック1名／マッサー1名／スタッフ1名)

● 競技規則／ Regulations

UCI(国際自転車競技連合)規則及び本大会特別規則による
According to the UCI regulations and the specific regulations of the race

● 開催日程／ Race Schedule

2026年5月24日(日)～5月31日(日)
2026 May 24th(Sun)～May 31st(Sun)

チャリ・ロト 堺ステージ 5/24(日)13:30
大仙公園周回コース 2.6km(個人タイムトライアル)
獲得標高 = 10m

JPF 京都ステージ 5/25(月)9:45
(普賢寺ふれあいの駅→けいはんなプラザ周回コース
<パレード 6.6km> + <2.8km + 16.8km x 6 周 = 103.6km>
獲得標高 = 2,181m

いなべステージ 5/26(火)9:30
阿下喜駅前→下野尻交差点→いなべ市梅林公園周回コース
<パレード 3.0km> + <8.6km + 14.8km x 8 周 = 127.0km>
獲得標高 = 2,135m

Astemo 大鹿ステージ 5/27(水)10:00
大西公園→新小波橋→道の駅 歌舞伎の里大鹿→大鹿村運動広場
3.8km x 3 周(チームタイムトライアル) = 11.4km
獲得標高 = 312m

綿半 信州飯田ステージ 5/28(木)10:00
下久堅小学校グラウンド前→下久堅周回コース→下久堅小学校グラウンド前
<パレード 1.7km> + <10.8km + 12.2km x 9 周 + 0.3km = 120.9km>
獲得標高 = 2,981m

スルガ銀行 富士山ステージ 5/29(金)10:30
富士霊園前周回コース→須走本町交差点→ふじあざみライン五合目
<パレード 8.1km> + <2.2km+10.3km x 4 周 +18.7km=62.1km>
獲得標高 = 2,581m

AMANO 相模原ステージ 5/30(土)8:50
橋本公園→旧小倉橋→串川橋→鳥居原ふれあいの館前周回コース
<パレード 4.8km> + <10.9km + 13.8km x 7 周 = 107.5km>
獲得標高 = 1,922m

SPEEDチャンネル 東京ステージ 5/31(日)11:00
大井埠頭周回コース
<パレード 3.8km> + <6.5km x 16 周 = 104.0km>
獲得標高 = 73m

総走行距離 Total Distance = 639.1km

総獲得標高 Total Elevation = 12,195m

● 大会役員／ Officials

President	会 長	田中 栄作	TANAKA Eisaku
Committee Chairman	委員長	栗村 修	KURIMURA Osamu
Committee Vice Chairman	副委員長	中梶 秀則	NAKAKAJI Hidenori
Committee Vice Chairman	副委員長	大島 武巳	OHSHIMA Takemi
Committee Members	委 員	入谷 誠	IRITANI Makoto
		幸田 徳之	KODA Noriyuki
Auditor	監 事	設案 忠	SHITARA Tadashi



TOJ NEW GENERATION >>>>>>>>

ツアー・オブ・ジャパン組織委員会 委員長

栗村 修

28回目の開催となったツアー・オブ・ジャパン2026は、「EIGHT PIECES. ONE FUTURE.」をキャッチフレーズに掲げ、8つの個性豊かなステージをひとつの物語として紡ぎながら、日本の多様な魅力と美しさを世界へ発信する大会となりました。今年は新たな開催地として、人口1,000人に満たない長野県の山あい位置する美しい村・大鹿村が加わりました。

澄んだ空気と雄大な自然に囲まれたコースには、村の子どもたちをはじめ多くの住民の皆さまが沿道に集まり、選手たちを温かく迎えてくださいました。大都市のレースとは異なる、地域全体がひとつになったような歓迎と熱気は、TOJキャラバンにとっても忘れることのできない光景となりました。

日本の美しい地域にロードレースの感動をお届けできたこと、そして全8ステージの地域の皆さまと笑顔でつながることができたことを、大会関係者一同、大変うれしく思っております。

大会全体としては、ハイスピードな個人TTで幕を開け、激しい山岳決戦へと続く8日間8ステージ。各ステージで繰り広げられた世代を超えた熱戦と、勝利を目指して全力を尽くす選手たちの姿は、多くの人々の心を動かししました。

沿道で声援を送り続けてくださったファンの皆さまにも、あらためて深く感謝申し上げます。皆さまの声援は、選手たちにとって大きな力となり、レースを支えるかけがえのない存在でした。

また、各地で実施した「Astemo TOJ キッズ」では、自転車に親しむ子どもたちの笑顔があふれました。子どもたちがトップ選手の走りに目を輝かせる姿は、私たちが目指す未来そのものであり、次世代へとつながる大切な財産であると感じています。

8日間を走り切ったすべての選手・チームの皆さまにも敬意を表します。勝利の喜びも、悔しさも、そのすべてがTOJ2026を彩り、この大会ならではの物語を創り上げてくださいました。

そして、大会を支えてくださったすべての皆さまに、あらためて感謝申し上げます。開催自治体・関係機関の皆さま、地域住民の皆さま、協賛企業・団体の皆さま、コミセールやマーシャルをはじめとする大会運営スタッフの皆さま、メディアの皆さま、一人ひとりのお力添えがあってこそ、ツアー・オブ・ジャパンは開催することができています。本当にありがとうございました。

ツアー・オブ・ジャパンは、自転車ロードレースの魅力と挑戦を発信するとともに、日本各地の人々をつなぐ大会であり続けたいと考えています。

来年も「TOJ NEW GENERATION」の基本コンセプトのもと、新たな挑戦と感動を皆さまにお届けできるよう準備を進めてまいります。

2027年のツアー・オブ・ジャパンで、再び皆さまとお会いできることを心より楽しみにしております。

また来年、お会いしましょう。



TFT

ITA (イタリア)

監督:水谷 壮宏 MIZUTANI Takehiro



- | | | | | |
|----|-------------------|-------------------|-------|----|
| 11 | 新城 幸也 | ARASHIRO Yukiya | 日本 | 41 |
| 12 | カミール・ボヌー | BONNEU Kamiel | ベルギー | 26 |
| 13 | マッテオ・ファブロ | FABBRIO Matteo | イタリア | 31 |
| 14 | ティレン・フィンクスト | FINKŠT Tilen | スロベニア | 28 |
| 15 | アレックスandro・ロ・イアッキ | IACCHI Alessandro | イタリア | 26 |
| 16 | トマーズ・ネンチーニ | NENCINI Tommaso | イタリア | 25 |

TSG

MAS (マレーシア)

監督:モハド・サイフル・アヌアル・アズィズ AZIZ Mohd Saiful Anuar



- | | | | | |
|----|---------------------------|----------------------------------|---------|----|
| 31 | アドネ・ヴィレムヤン・ファン・エンゲレン | VAN ENGELÉN Adne Willemjan | オランダ | 33 |
| 32 | ムハンマド・シャフミール・アイマン・アブド・ハリム | ABD HALIM Muhammad Shahmir Aiman | マレーシア | 26 |
| 33 | ジェ・イ・キーノ・哲智吾 | KEE Zhe Yie | マレーシア | 23 |
| 34 | ゼブ・キフィン | KYFFIN Zeb | イギリス | 28 |
| 35 | マティアス・ブレンホイ | BREGNHØJ Mathias | デンマーク | 30 |
| 36 | ファーガス・ブラウニング | BROWNING Fergus | オーストラリア | 22 |

CBW

AUS (オーストラリア)

監督: アンドリュー・ウェイン・ジャクソン JACKSON Andrew Wayne



- | | | | | |
|----|--------------|-------------------|---------|----|
| 51 | マッシュ・グリーンウッド | GREENWOOD Matthew | オーストラリア | 23 |
| 52 | フィンレイ・ウォルシュ | WALSH Finlay | オーストラリア | 22 |
| 53 | オスカ・ギャラガー | GALLAGHER Oscar | オーストラリア | 19 |
| 54 | グレアム・フリズリー | FRISLIE Graeme | アメリカ | 25 |
| 55 | ウィル・ヒース | HEATH Wil | オーストラリア | 19 |
| 56 | リアム・ウォルシュ | WALSH Liam | オーストラリア | 24 |

VCF

JPN (日本)

監督:佐藤 信哉 SATO Shin'ya



- | | | | | |
|----|-------------------|-------------------------|------|----|
| 71 | ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル | PRADES REVERTER Benjami | スペイン | 42 |
| 72 | ジェラルド・レデスマ・ガルシア | LEDESMA GARCIA Gerard | スペイン | 23 |
| 73 | 山本 大喜 | YAMAMOTO Masaki | 日本 | 30 |
| 74 | 本多 晴飛 | HONDA Haruhi | 日本 | 26 |
| 75 | 横塚 浩平 | YOKOTSUKA Kohei | 日本 | 31 |
| 76 | 住田 悠人 | SUMITA Yujin | 日本 | 18 |

VICTOIRE HIROSHIMA

ヴィクトワール広島

監督:西村 大輝 NISHIMURA Hiroki



81	エリオット・シュルツ	SCHULTZ Elliot	オーストラリア	25
82	孫崎 大樹	MAGOSAKI Daiiki	日本	29
83	久保田 悠介	KUBOTA Yusuke	日本	29
84	レオネル・キンテロ・アルデアガ	QUINTERO ARTEAGA Leonel	ベネズエラ	29
85	中村 圭佑	NAKAMURA Keisuke	日本	27
86	ルーク・バーンズ	BURNS Luke	オーストラリア	27

AISAN RACING TEAM

愛三工業レーシングチーム

監督:小森 亮平 KOMORI Ryohei



101	留目 夕陽	TODOME Yuhi	日本	23
102	岡本 隼	OKAMOTO Hayato	日本	30
103	宇田川 暁	UDAGAWA Rui	日本	23
104	當原 隼人	TOBARU Hayato	日本	28
105	織田 聖	ODA Hijiri	日本	27
106	南 和人	MINAMI Kazuto	日本	22

SWATT CLUB

スワットクラブ

監督:ロレンツォ・ペスキ PESCHI Lorenzo



121	フランチェスコ・カロツコ	CAROLLO Francesco	イタリア	25
122	カスパー・アナスン	ANDERSEN Kasper	デンマーク	23
123	ニコロ・ベッティーニ	PETTITI Nicolo	イタリア	23
124	マッズ・アナスン	ANDERSEN Mads	デンマーク	25
125	ジャコモ・ガラヴァーリャ	GARAVAGLIA Giacomo	イタリア	29
126	マティアス・マルンベア	MALMBERG Matias	デンマーク	25

JAPAN NATIONAL TEAM

日本ナショナルチーム

監督:宮崎 景涼 MIYAZAKI Keisuke



141	岡本 勝哉	OKAMOTO Katsuya	日本	23
142	島崎 将男	SHIMAZAKI Masao	日本	20
143	梅澤 幹太	UMEZAWA Kanta	日本	21
144	三浦 一真	MIURA Kazuma	日本	19
145	新藤 大翔	SHINDO Taïto	日本	19
146	吉田 奏太	YOSHIDA Sota	日本	18

VCH

JPN (日本)

SEOUL CYCLING TEAM

ソウル サイクリングチーム

監督:チョ・ホソン CHO Hosung



91	ミン・キョンホ	MIN Kyeongho	韓国	29
92	チョン・ウホ	JUNG WooHo	韓国	28
93	イ・ジョンフン	LEE Jeonghoon	韓国	25
94	イ・ウイミン	LEE Uimin	韓国	22
95	イ・ジング	LEE Jingu	韓国	20
96	チャ・アソム	CHA Aseom	韓国	19

SCT

KOR (韓国)

ART

JPN (日本)

SHIMANO RACING TEAM

シマノレーシングチーム

監督:野寺 秀徳 NODERA Hidenori



111	風間 翔真	KAZAMA Shoma	日本	30
112	香山 飛龍	KAYAMA Hiryu	日本	25
113	山田 拓海	YAMADA Takumi	日本	24
114	林原 聖真	HAYASHIBARA Shoma	日本	22
115	日野 泰静	HINO Taisei	日本	25
116	渡邊 和貴	WATANABE Kazuki	日本	23

SMN

JPN (日本)

SWT

ITA (イタリア)

LEVANTE FUJI SHIZUOKA

レバンテフジ静岡

監督:二戸 康寛 NITO Yasuhiro



131	高梨 万里王	TAKANASHI Mario	日本	24
132	サルマ 寛大	SHARMA Kanta	日本	24
133	山口 晃太	YAMAGUCHI Eiji	日本	24
134	シーム・キスコネン	KISKONEN Siim	エストニア	29
135	瀬川 ジョエル	SEGAWA Joel	日本	21
136	森 風翔	MORI Oga	日本	19

LVF

JPN (日本)

UZBEKISTAN NATIONAL CYCLING TEAM

ウズベキスタン ナショナル サイクリングチーム

監督:ルスラン・ウセイノフ USEYNOV Ruslan



151	ディヨル・タヒロフ	TAKHIROV Diyor	ウズベキスタン	20
152	ムラジャン・ハルムラトフ	KHALMURATOV Muradjan	ウズベキスタン	43
153	ドミトリー・ボチャロフ	BOCHAROV Dmitriy	ウズベキスタン	23
154	ベフゾド・ボホディロフ	BOHODIROV Behzod	ウズベキスタン	20
155	サマンドル・ジャニク洛夫	JANIKULOV Samandar	ウズベキスタン	21
156	アヴァズベク・カモロフ	KAMOLOV Avazbek	ウズベキスタン	21

UZB

UZB (ウズベキスタン)

1st Stage >>>>>>>>>> Chariloto SAKAI

2.6km チャリ・ロト 堺ステージ

- 場所：大阪府堺市大仙公園 ●天候：曇り 29℃
- 来場者数：48,000 人 ●ステージアンバサダー：今西尚志
- ホームステージチーム：シマノレーシングチーム



チャリ・ロト 堺ステージ優勝 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)

トンマーズ・ダーティが開幕個人タイムトライアルを制覇 TEAM UKYOがワンツーフイニッシュ

ツアー・オブ・ジャパン2026の開幕戦となるチャリ・ロト 堺ステージが、大仙公園周回コースで開催された。2.6kmの個人タイムトライアルで行われた大会初日、TEAM UKYOのトンマーズ・ダーティが2分57秒94のトップタイムを記録し、ステージ優勝を飾るとともにグリーンジャージを獲得した。ディフェンディングチャンピオンチームとして大会に臨んだTEAM UKYOは、最終走者の山本哲央も2位に入り、開幕ステージでワンツーフイニッシュを達成。ダーティは、コーナーの多いテクニカルコースを高いスピード

で攻略し、前年優勝タイムを上回るステージレコード級の走りを披露した。3位にはスワット クラブのマッズ・アナスンが入った。また、ダーティはポイント賞でも首位に立ち、ホワイトジャージ(新人賞)はシーキャッシュ X ボディラップのオスカー・ギャラガーが獲得した。開幕戦からTEAM UKYOがその層の厚さと総合力を示した一方で、各チームの有力選手たちも存在感を発揮。1週間にわたるステージレースの本格的な戦いに向け、注目のスタートとなった。

個人総合時間賞(グリーンジャージ)・
個人総合ポイント賞(ブルージャージ)
トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO) のコメント

堺ステージ 2 位
山本哲央 (TEAM UKYO) のコメント

堺国際クリテリウムを走ったことで、コースの特徴やスピードを維持できるポイントを把握できていました。開幕ステージで勝利できたことは嬉しいですが、自分自身は総合優勝を狙うタイプの選手ではありません。チームとして総合成績を重視しており、この先のステージでも勝利を狙っていききたいです。まずはリーダージャージを守りながら、TEAM UKYOとして良い形で大会を進めていきたいです。

個人TTには自信を持って臨みました。昨年よりも良いコンディションで走ることができ、開幕ステージでチームのワンツーフイニッシュに貢献できたことを嬉しく思います。TOJは特別な大会ですし、日本人選手としてステージ優勝への気持ちは常にあります。今後のステージでも積極的にチャンスを狙っていききたいです。



▲堺ステージアンバサダー 今西尚志氏



▲堺ホームステージチーム シマノレーシングチーム



▲堺国際クリテリウムスターター 堺市長 永藤英機氏



▲個人タイムトライアルスターター 一般社団法人 自転車協会 伊藤政博理事長



▲堺ステージ優勝トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO) と TOJキッズ



▲堺ステージ実行委員会委員長 斧隆夫氏と個人総合時間賞 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)



▲大阪府 府民文化部 文化・スポーツ室 スポーツ振興課課長 馬場正利氏と個人総合時間賞 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)



▲堺市 産業振興局局長 上西浩氏と個人総合時間賞 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)



▲株式会社チャリ・ロト代表取締役 石原洋輔氏とポイント賞 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)



▲AliExpressジャパン マーケティング部 部長 シェリー・シ氏と新人賞 オスカー・ギャラガー (シーキャッシュ X ボディラップ)



▲RTA賞 ロード・トゥ・ラヴニールプロジェクトマネージャー 浅田顕氏と住田悠人 (VC 福岡)



▲大阪府警察音楽隊演奏

第1ステージ順位

1位	トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)	2分57秒94
2位	山本哲央 (TEAM UKYO)	+1秒18
3位	マッズ・アナスン (スワット クラブ)	+2秒53

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)



1位	トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)	2分57秒
2位	山本哲央 (TEAM UKYO)	+2秒
3位	マッズ・アナスン (スワット クラブ)	+3秒



個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)

1位	トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)	10pt
2位	山本哲央 (TEAM UKYO)	9pt
3位	マッズ・アナスン (スワット クラブ)	8pt



個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)

1位	オスカー・ギャラガー (シーキャッシュ X ボディラップ)
2位	住田悠人 (VC福岡)
3位	ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)

RTA賞

住田悠人 (VC福岡)

個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)
オスカー・ギャラガー
(シーキャッシュ X ボディラップ) のコメント

UCIレースでホワイトジャージを着用するのは初めてなので、とても嬉しく思います。チームには強力なスプリンターがいるため、自分はアシストとしての役割を果たすことが重要になりますが、中でも自分自身のチャンスを探していきたいです。できる限り長くこのジャージを守れるように走りしたいと思います。

01 1st Stage Charloto SAKAI

02 2nd Stage JPF KYOTO

03 3rd Stage INABE

04 4th Stage Astemo OOSHIMA

05 5th Stage WATANABE SHINSHU IIDA

06 6th Stage SUNUGA bank FUJISAN

07 7th Stage AMANO SAGAMIHARA

08 8th Stage SPEED CHANNEL TOKYO

2nd Stage >>>>>>>>>> JPF KYOTO

103.6km

JPF 京都ステージ

●場所：京都府 ●天候：晴れ 30℃
 ●来場者数：48,000 人 ●ステージアンバサダー：三船雅彦



JPF京都ステージ優勝 トンマーズ・ダーティ(右) (TEAM UKYO)

総合リーダーのトンマーズ・ダーティがステージ2連勝で 総合タイム差を拡大

第2ステージ・JPF 京都ステージは、京田辺市普賢寺ふれあいの駅をスタートし精華町けいはんな学研都市にフィニッシュする周回コース(2.8km+16.8km×6周、総距離103.6km)で実施され、晴天のもと約48,000人が来場した。

レースは大会の本格的なマストロードレース初日として行われ、序盤からアタックの応酬が続いた。1周目には吉田奏太(日本ナショナルチーム)とジャコモ・ガラヴァーリャ(スワット クラブ)が逃げを形成し、一時はメイン集団に対して約2分30秒差を築いた。途中からは新城幸也(ソリュションテック NIPPO ラーリ)やリーニン スター勢、TEAM UKYO らが集団をコントロールし、終盤に向けてレースペースを引き上げた。

最終周回の登坂区間ではTEAM UKYO が強力なペースアップを見せ、シモーネ・ラッカーニの牽引によって集団は分裂。トンマーズ・ダーティ、フェ

デリコ・イアコモーニ(ともにTEAM UKYO)、ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル(VC福岡)、レイン・タラマエ(キナンレーシングチーム)の4名が先頭グループを形成した。後続との差を維持したまま、勝負は4名によるスプリントへ持ち込まれ、トンマーズ・ダーティが勝利。第1ステージに続く2連勝を達成し、個人総合時間賞(グリーンジャージ)のリードを拡大した。また、山岳ポイントを2度先頭通過したジャコモ・ガラヴァーリャ(スワットクラブ)が個人総合山岳賞(レッドジャージ)を獲得。新人賞(ホワイトジャージ)は、メイン集団内で15位フィニッシュを果たしたウィル・ヒース(シーキャッシュ X ボディラップ)が首位に立った。ステージ順位は、1位トンマーズ・ダーティ、2位ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル、3位フェデリコ・イアコモーニ。総合順位でもダーティが首位を維持し、大会序盤の主導権を握った。

ステージ優勝・個人総合時間賞(グリーンジャージ)・
 個人総合ポイント賞(ブルージャージ)
 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO) のコメント

昨日得た総合のリードが少なかったため、今日はスプリント勝負に持ち込んでその差を広げるつもりでした。それで集団の人数を減らすためにチームメイトに最終周回の登りでアタックするよう頼みました。登りを終えた時に前から4人目のポジションにいて、下りで後者が割れたのでその4人でフィニッシュに向かいました。イアコモーニのためにスプリントを開始したものの、ブラデスが迫ってきたので自分のスプリントに切り替えて、勝つことができました。



▲京都ステージアンバサダー 三船雅彦氏



▲スターター 京田辺市長 上村崇氏



▲京都府山城広域振興局長 古澤明氏と京都ステージ優勝
トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)



▲株式会社 J P F 常務取締役 吉川智之氏と個人総合時間
賞 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)



▲精華町長 杉浦正省氏とポイント賞 トンマーズ・ダーティ
(TEAM UKYO)



▲京田辺市長 上村崇氏と山岳賞 ジャコモ・ガラヴァーリヤ
(スワット クラブ)



▲株式会社 J P F 常務取締役 吉川智之氏と新人賞 ウィル・
ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)



▲RTA賞 ロード・トゥ・ラヴニールプロジェクトマネージャー
浅田顕氏と吉田奏太 (日本ナショナルチーム)



▲同志社大學応援団チアリーダー部



▲スタートの京田辺市普賢寺ふれあいの駅



▲京都ステージ来賓の皆様



▲フィニッシュの精華町けいはんなプラザ

第2ステージ順位

1位	トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)	2時間39分06秒
2位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	+0秒
3位	フェデリコ・イアコモニ (TEAM UKYO)	+0秒

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)

1位	トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)	2時間41分53秒
2位	フェデリコ・イアコモニ (TEAM UKYO)	+10秒
3位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	+16秒

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)

1位	トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)	35pt
2位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	20pt
3位	フェデリコ・イアコモニ (TEAM UKYO)	18pt

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)

1位	ジャコモ・ガラヴァーリヤ (スワット クラブ)	10pt
2位	ニコロ・ガリッポ (TEAM UKYO)	3pt
3位	吉田奏太 (日本ナショナルチーム)	3pt

個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)

1位	ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)
2位	島崎将男 (日本ナショナルチーム)
3位	梅澤幹太 (日本ナショナルチーム)

RTA賞

吉田奏太 (日本ナショナルチーム)

個人総合山岳賞 (レッドジャージ) ジャコモ・ガラヴァーリヤ (スワット クラブ) のコメント

逃げにもっと人数がいればと思いますが、一人になってからもフィニッシュを目指して全力で走りました。逃げに入ってから山岳賞ジャージを獲得することが目標になりました。最終周回のKOMで集団に追いつかれてからは、ひたすら脱落しないよう踏ん張り、最後はチームメイトのスプリントをサポートできるよう務めました。

新人賞 (ホワイトジャージ) ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ) のコメント

今大会のレベルは高く、特に終盤のスピードは昨年より速かったです。リーニン スターとTEAM UKYO がペースを登りで上げて、レースを厳しくしてきました。最後の30分は本当にきつかったです。

5.26 tue START 09:30

3rd Stage >>>>>>>>>> INABE

127.0km

いなべステージ

- 場所：三重県いなべ市 ●天候：晴れ 27℃
- 来場者数：16,000 人 ●ステージアンバサダー：加藤康則
- ホームステージチーム：キナンレーシングチーム



いなべステージ優勝 ニコロ・ガリッポ (TEAM UKYO)

昨年の教訓を活かしたニコロ・ガリッポがいなべを制覇

大会3日目のいなべステージは、阿下喜駅前をスタートし、いなべ市梅林公園周回コースを8周する127.0kmで開催された。名物の激坂「イナベルグ」を擁するコースで、序盤には山本哲央 (TEAM UKYO)、山本元喜 (キナンレーシングチーム) ら5名による逃げグループが形成され、一時は2分以上のリードを築いた。

しかし、トレンガヌ サイクリングチームを中心としたメイン集団がペースを上げると差は徐々に縮小。最終週のイナベルグではTEAM UKYOがレースをコントロールし、ニコロ・ガリッポ (TEAM UKYO) がアタック。逃げを吸収して先頭で頂上を通過した。

下り区間で先頭は一時11名まで絞られたものの、後続が再合流し約30名によるスプリント勝負へ。総合リーダーのトンマーゾ・ダーティとフェデリコ・イアコモーニ (共にTEAM UKYO) のリードアウトから、ガリッポが残り150mで先頭に立つと、そのまま後続を振り切って優勝。昨年の経験を活かした絶妙なタイミングのスプリントで、TEAM UKYO に今大会2勝目をもたらした。

総合首位のダーティはグリーンジャージを守り、ベンジャミ・ブラデス (VC福岡) はステージ2位に入りブルージャージを獲得。山岳賞、新人賞の順位に変動はなかった。

ステージ優勝 ニコロ・ガリッポ
(TEAM UKYO) のコメント

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)
トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO) の
コメント

自分でステージを狙いに行くとは最初から決まっていたわけではありません。山本 (哲央) が逃げに乗ってくれたのですが、彼が残った2周の登りでメカトラで遅れてしまったので、チームとして体制を整え直す必要がありました。それで最後の2度の登坂では自分とイアコモーニで攻撃に打って出ました。しかし、逃げ切れなかったのでスプリントに備えることに。ダーティとイアコモーニに、「自分の調子はいいのでスプリントしたい」と言いました。イアコモーニも脚が残っているようだったので、2人でスプリントをすることにしました。昨年ここを走っていて、最後のコーナーを抜けてからは前を追いつくのは難しいことを知っていたので少し早めに仕掛けたんです。それが功を奏しました。

今日はチームのための仕事をしようと試み、それが達成できたことを嬉しく思います。自分はすでにこのTOJで勝利していますし、今シーズン他のレースでも勝っているので、チームメイトが勝つことはいいことです。チームタイムトライアルに関してはそこまで準備ができていたわけではありませんが、チームの調子いいのでベストを尽くします。



▲いなベステージアンバサダー 加藤康則氏



▲いなベホームステージチーム キナンレーシングチーム



▲スターター トヨタ車体株式会社 いなベ工場長 後藤隆志氏



▲いなベステージ実行委員会会長・いなベ市長 日沖靖氏と三重県立朝明高等学校自転車競技部とキナンレーシングチームみえジュニアクラブ



▲いなベ市長 日沖靖氏といなベステージ優勝 ニコロ・ガリッポ (TEAM UKYO)



▲いなベ市長 日沖靖氏と個人総合時間賞 トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)



▲いなベ市議会議長 渡辺一弘氏とポイント賞 ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)



▲いなベ市副市長 山下正史氏と山岳賞 ジャコモ・ガラヴァーリア (スワットクラブ)



▲いなベ市教育長 小川専哉氏と新人賞 ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)



▲RTA賞 ロード・トゥ・ラヴニールプロジェクトマネージャー 浅田顕氏と島崎将男 (日本ナショナルチーム)



▲キナンレーシングチームと地元応援団



▲いなベステージ実行委員会会長・いなベ市長 日沖靖氏

第3ステージ順位

1位 ニコロ・ガリッポ (TEAM UKYO)	3時間3分00秒
2位 ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	+0秒
3位 オスカー・ギャラガー (シーキャッシュ X ボディラップ)	+0秒

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)

1位 トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)	5時間44分53秒
2位 ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	+10秒
3位 フェデリコ・イアコモニ (TEAM UKYO)	+10秒

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)

1位 ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	40pt
2位 トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)	39pt
3位 ニコロ・ガリッポ (TEAM UKYO)	33pt

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)

1位 ジャコモ・ガラヴァーリア (スワットクラブ)	10pt
2位 山本元喜 (キナンレーシングチーム)	9pt
3位 フランチェスコ・カロロ (スワットクラブ)	8pt

個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)

1位 ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)
2位 島崎将男 (日本ナショナルチーム)
3位 オスカー・ギャラガー (シーキャッシュ X ボディラップ)

RTA賞

島崎将男 (日本ナショナルチーム)

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)
ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル
(VC福岡) のコメント個人総合山岳賞 (レッドジャージ)
ジャコモ・ガラヴァーリア (スワットクラブ)
のコメント新人賞 (ホワイトジャージ) ウィル・ヒース
(シーキャッシュ X ボディラップ) のコメント

今日は少人数でのスプリントを目指して、実際そうなりました。勝利を目指しましたが、自分より速い選手が1人いて勝てませんでした。脚の調子は良かったのですが、スプリントを始めるのに出遅れてしまったんです。今大会一番の目標はステージ優勝ですが、このポイント賞ジャージを昨年東京ステージで失った経験もあるので、守り切りたいですね。

山岳賞ジャージを守るために今日も逃げようとしたものの、叶いませんでした。しかし幸運にもチームメイトのカロロが逃げてポイントを獲得してくれたおかげでジャージを失わずに済みました。今日は自分のスプリントに集中して、トップ10フィニッシュ。昨日の逃げの後でなら上出来ではないでしょうか。この山岳賞ジャージを東京までキープするために戦います。

今日もかなりハードな一日でした。特に最終周は中切れが連発して、大変でした。この先も自分の調子がいいことを祈ります。昨年走った富士山ステージは自分に向いているはずなので、ホワイトジャージを東京まで着続けたいと思います。

Astemo

5.27 Wed START 10:00

4th Stage >>>>>>>>> Astemo OOSHIKA

11.4km

Astemo 大鹿ステージ

●場所：長野県下伊那郡大鹿村 ●天候：曇り 24℃
●来場者数：600人 ●ホームステージチーム：Astemo 宇都宮ブリッツェン

Astemo 大鹿ステージ優勝 ソリューションテック NIPPO ラーリ

TOJ史上初のチームタイムトライアル。ソリューションテック NIPPO ラーリがプロチームの格を見せ、初開催の大鹿ステージを制する。

第4ステージAstemo 大鹿ステージは、長野県大鹿村を舞台に大会初開催となるチームタイムトライアル(TTT)として実施された。全15チームが、獲得標高312mを含む1周3.8kmのコースを3周する総距離11.4kmに挑戦し、チーム力と戦略が試される一日となった。

レースは、ソリューションテック NIPPO ラーリが15分44秒18を記録して優勝。今大会ここまで全ステージを制していたTEAM UKYOは、スタート直後の下り区間で落車のアクシデントに見舞われながらも力強い走りを披露したが、わずか1秒45差で2位となった。3位にはスワット クラブが入

り、初開催のTTTは最後まで勝敗の行方が分からない接戦となった。

優勝したソリューションテック NIPPO ラーリは、最終周回の登坂区間に向けて主力選手を温存する巧みなチーム戦術が奏功。新城幸也は「力を出し切れれば勝てると思っていた」と振り返り、チーム全員で勝ち取った勝利を強調した。一方、総合首位のトンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO) は味方の落車の影響を受けながらも総合リーダー・ジャージを守り、翌日以降の総合争いへ向けて優位な立場を維持した。大会中盤の重要なステージとなった大鹿TTTは、個人の力だけでなくチームワークの重要性を印象付けるレースとなった。

ステージ優勝 チーム代表 新城幸也
(ソリューションテック NIPPO ラーリ)
のコメント

ステージ優勝は狙っていましたが、何が何でも勝とうとしていたわけではなく、力を出し切れれば勝てるだろうと思うぐらいでした。登って下って平坦、というレイアウトだったので、川沿いの平坦ストレート区間で誰か一人が犠牲になればその間は他のメンバーが休める。だから最終周に3人が全開で上れるように、残りの選手でアシストしました。3人は最終周までに1回しか隊列の先頭を走ってないんですよ。彼らを完璧に温存したんです。

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)
トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)
のコメント

1秒差でステージ優勝を失ったという事実は辛いものがあります。最初の下りで落車により山本とゼライがいなくなり、4人で残りのコースを全開で走るのはハードでした。フィニッシュでは1秒遅れ。そういう意味ではベストは尽くしました。明日以降のステージでも、我々はいいいレースをしたいと思っています。

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)
ベンジャミ・プラデス・レヴェルテル
(VC福岡) のコメント

チームとしてはもうちょっといい成績出せばよかったですが、あまり経験や特定の練習を積めていなかったこの種のレースでタイムを大きく失わなかったのが上出来でしょう。総合で上位にいますが、最終的に総合成績を狙うかはわかりません。富士山は年によっていい時と悪い時があるので……ベストを尽くします。



▲大鹿ホームステージチーム Astemo 宇都宮ブリッツェン



▲スターター 大鹿村村長 熊谷英俊氏



▲Astemo株式会社 執行役員グローバルアカウントマネージャー 島田育宜氏と大鹿ステージ優勝 ソリューションテック NIPPO ラーリ



▲大鹿村村長 熊谷英俊氏と個人総合時間賞 トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)



▲大鹿村村議会 産業建設常任委員長 松澤武裕氏とポイント賞 ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)



▲大鹿村商工会副会長 吉野君一氏と山岳賞 ジャコモ・ガラヴァーリア (スワット クラブ)



▲大鹿村教育委員会教育長 田本忍氏と新人賞 ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)



▲レース会場の大鹿村大西公園周辺と小洪川にかかる新小洪橋 (手前) と小洪橋 (めがね橋)



▲大鹿歌舞伎愛好会による三番叟



▲TOJ初のチームタイムトライアルが開催された大西公園



▲初開催を楽しんだ大鹿村の住民



▲ステージ優勝チームへの副賞の鹿リース

第4ステージ順位

1位	ソリューションテック NIPPO ラーリ	15分44秒18
2位	TEAM UKYO	+1秒45
3位	スワット クラブ	+5秒11

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)

1位	トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)	6時間00分38秒
2位	フェデリコ・イアコモニ (TEAM UKYO)	+10秒
3位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	+28秒

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)

1位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	40pt
2位	トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)	39pt
3位	ニコロ・ガリッポ (TEAM UKYO)	33pt

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)

1位	ジャコモ・ガラヴァーリア (スワット クラブ)	10pt
2位	山本元喜 (キナンレーシングチーム)	9pt
3位	フランチェスコ・カロロ (スワット クラブ)	8pt

個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)

1位	ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)
2位	島崎将男 (日本ナショナルチーム)
3位	梅澤幹太 (日本ナショナルチーム)

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)
ジャコモ・ガラヴァーリア (スワット クラブ)
のコメント

新人賞 (ホワイトジャージ) ウィル・ヒース
(シーキャッシュ X ボディラップ) のコメント

チームタイムトライアルは難しいレースですが、ステージ3位という結果は喜ぶべきでしょう。もちろんいつだって勝利が一番良いですが、明日は山岳ポイントを狙いたいところですが、総合でも上位にいるので(5位)、簡単に逃がしてもらえるかは様子を見ましょう。カロロも山岳賞で上位にいるので、どちらかが逃げに乗れば良いですね。

長いステージではなかったですが、強度の高いハードな一日でした。でもいい走りことができました。UCIレースでは初めてのチームタイムトライアルで、自分にとって新しい経験でした。チームとしても今日のパフォーマンスは満足しているものだったと思います。

5th Stage >>>> WATAHAN SHINSHU IIDA

120.9km

綿半 信州飯田ステージ

- 場所：長野県飯田市 ●天候：曇り 27℃
- 来場者数：20,000 人 ●ステージアンバサダー：福島晋一
- ホームステージチーム：TEAM UKYO



綿半 信州飯田ステージ優勝 トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)

総合リーダーに死角なし。 トンマーゾ・ダーティが圧巻の今大会3勝目

第5ステージ綿半 信州飯田ステージは、総合争いの行方を左右する大会屈指の山岳ステージとして開催された。120.9kmの起伏に富んだコースでは、序盤から15名による大規模な逃げグループが形成され、山岳賞や総合成績を狙う選手たちによる激しい攻防が繰り広げられた。逃げ集団では山本元喜(キナンレーシングチーム)が山岳ポイントを着実に積み重ね、レッドジャージ獲得へ大きく前進。一方、終盤にはニルス・シンチェック(リーニン スター)が単独アタックを仕掛けるなどレースは大きく動いた。しかし最終周回、総合首位のトンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO) が自

らペースアップし、マッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)とともに先頭へ合流。勝負は3名によるスプリントへ持ち込まれた。最後はダーティが冷静にレースをコントロールしステージ優勝。今大会3勝目を挙げるとともに、総合首位のグリーンジャージに加え、ポイント賞のブルージャージも獲得した。TEAM UKYOのエースとして圧倒的な存在感を示したダーティは、総合優勝争いにおいても大きくリードを広げる結果となった。一方で山本元喜は念願の山岳賞首位に立ち、後半戦に向けて各賞争いがさらに激しさを増すことを予感させるステージとなった。

ステージ優勝・個人総合時間賞 (グリーンジャージ)・
個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)
トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO) のコメント

ずっとステージ優勝を狙ってきていますが、頑張れば総合優勝も狙えるんじゃないかと言われています。自分自身、本当に狙えるのかわからないのですが、明日はできる限り追い込んで走ってみて、それで前にいられるようなトライしてみたいと思います。誰かがものすごく調子が良ければ、明日ジャージを失う可能性もありますから、一日一日ベストを尽くすのみです。まだステージ優勝を獲りたい気持ちもありますが、チームメイトに勝ってほしいとも思っています。

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)
山本元喜 (キナンレーシングチーム) のコメント

今日のステージが山岳ポイントの配点が一番大きいので、ここで獲なければ最終的な可能性も無くなります。今日は全体的にうまくいきました。(山岳賞を直接争う)スワット クラブの2人も逃げに入っていたので、最初の山岳ポイントは全開でもがきました。



▲信州飯田ステージアンバサダー 福島晋一氏



▲信州飯田ホームステージチーム TEAM UKYO

▲スターター TOJ信州飯田ステージ組織委員会顧問
飯田市長 佐藤健氏▲川楽屋 陶工房空 土屋智恵氏と信州飯田ステージ優勝
トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)▲花井メティテック株式会社 代表取締役社長 花井孝文氏
と信州飯田ステージ優勝 トンマーズ・ダーティ (TEAM
UKYO)▲飯田市長 佐藤健氏と信州飯田ステージ優勝 トンマーズ・
ダーティ (TEAM UKYO)▲株式会社綿半インテック 代表取締役会長 笹広男氏と個人
総合時間賞 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)▲下久堅地区まちづくり委員会会長 平岩好友氏とポイント
賞 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)▲TOJ信州飯田ステージ組織委員会実行委員長 福島晋一
氏と山岳賞 山本元喜 (キナンレーシングチーム)▲喜久水酒造株式会社 事業統括部長 濱島光宏氏と新人賞
ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)▲RTA賞 ロード・トゥ・ラグビニールプロジェクトマネージャー
浅田顕氏と島崎将男 (日本ナショナルチーム)

▲知久平諏訪神社木遣唄

第5ステージ順位

1位	トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)	2時間59分16秒
2位	マッテオ・ファップロ (ソリューションテック NIPPO ラーリ)	+0秒
3位	ニルス・シンシェック (リーニン スター)	+0秒

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)



1位	トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)	8時間59分44秒
2位	フェデリコ・イアコモニ (TEAM UKYO)	+31秒
3位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	+49秒

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)



1位	トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)	64pt
2位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル (VC福岡)	48pt
3位	ニコロ・ガリッポ (TEAM UKYO)	45pt

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)



1位	山本元喜 (キナンレーシングチーム)	26pt
2位	フランチェスコ・カロロ (スワット クラブ)	23pt
3位	ジャコモ・ガラヴァーリヤ (スワット クラブ)	16pt

個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)



1位	ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)
2位	島崎将男 (日本ナショナルチーム)
3位	オスカー・ギャラガー (シーキャッシュ X ボディラップ)

RTA賞

島崎将男 (日本ナショナルチーム)

新人賞 (ホワイトジャージ)
ウィル・ヒース
(シーキャッシュ X ボディラップ) のコメント

今日は逃げがステージ優勝を争うと思っていました。一日の大半は走りやすかったですが、最後の数周はとてもハードでした。2人の飛び出しにはついていけませんでした。登りを全力で走り、集団に残れたことは良かったです。



スルガ銀行

5.29 **fri** START 10:30

6th Stage >>> SURUGA bank FUJISAN

62.1km スルガ銀行 富士山ステージ

- 場所：静岡県駿東郡小山町 ●天候：曇り 25°C (富士山須走口五合目)
- 来場者数：13,000 人 ●ステージアンバサダー：飯島 誠
- ホームステージチーム：レバンテフジ静岡



スルガ銀行 富士山ステージ優勝 マッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)

霊峰富士でワンツーフィニッシュ ソリューションテック NIPPO ラーリが総合争いを掌握

第6ステージスルガ銀行 富士山ステージは、大会最大の山場として知られる富士山須走口五合目を目指す62.1kmで開催された。レース序盤から7名による逃げグループが形成され、一時は3分近いリードを築くなど積極的な展開となったが、総合首位を擁するTEAM UKYOが集団をコントロールし、勝負は終盤のふじあざみラインへと持ち込まれた。

本格的な登坂区間に入ると、ソリューションテック NIPPO ラーリが圧倒的なチーム力を発揮。残り4.6kmでカミール・ボヌーとマッテオ・ファップロが先頭に追いつくと、その後は二人による主導権争いとなった。残り2kmでファップロがアタックを決めて独走態勢に入り、そのままフィニッシュ。

ボヌーが2位に入り、チームによるワンツーフィニッシュを達成した。

この結果、ファップロはステージ優勝とともに個人総合首位へ浮上。総合2位にもボヌーが入り、ソリューションテック NIPPO ラーリが総合成績の上位を独占する形となった。一方、これまで総合首位を守ってきたトンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO) はポイント賞ジャージを維持。山岳賞の山本元喜 (キナンレーシングチーム)、新人賞のウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ) にも変動はなく、東京決戦を前に各賞争いの構図がより鮮明となった。富士山ステージは、総合優勝争いの主導権が大きく動く大会のターニングポイントとなった。

ステージ優勝・個人総合時間賞 (グリーンジャージ)
マッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)
のコメント

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)
トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO) のコメント

フィニッシュまで全開で走り他のライダーを離すことに注力し、ワンツーフィニッシュになることは予想していませんでした。カミール(・ボヌー)と2人で先頭になったので『フィニッシュまでこのまま2人で行こう』と話したのですが、後続とのタイム差が知らされず、またカミールもキツそうだったので最後は単独で行くことにしました。登り始めからフィクスト、イアッキ、ボヌー、そして自分で集団のペースを上げたことで他チームの攻撃を許さずレースができました。自分の総合首位はもちろん、カミールの総合2位も守りきって東京を迎えたいと思います。

富士山はすごくキツかったです。リーダージャージを守ればと思いましたが、最後にはこれはミッション・インポッシブルだと悟りました。今日は全力を出し切りましたが、それでも明日は私たちに新たなステージ優勝のチャンスがあると信じています。ここからはこのポイント賞ジャージがTOJの目標になります。



▲富士山ステージアンバサダー 飯島誠氏



▲富士山ホームステージチーム レバンテフジ静岡



▲スターター 富士山ステージ実行委員会会長/小山町長 山正秀氏



▲スルガ銀行株式会社 代表取締役 専務執行役員 戸谷友樹氏と富士山ステージ優勝 マッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)



▲富士山ステージ実行委員会会長/小山町長 山正秀氏と個人総合時間賞マッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)



▲小山町議会議長 鈴木豊氏とポイント賞 トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)



▲富士山ステージ実行委員会副会長/小山町観光協会会長 鈴木萬利子氏と山岳賞 山本元喜(キナンレーシングチーム)



▲富士山ステージ実行委員会副会長/小山町商工会長 秋田敬氏と新人賞 ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)



▲RTA賞 ロード・トゥ・ラヴニールプロジェクトマネージャー 浅田顕氏と島崎将男(日本ナショナルチーム)



▲スタート会場の富士霊園をスタートする選手たち



▲コース沿道で応援する地元児童たち



▲ふじあざみラインを登る選手たち

第6ステージ順位

1位	マッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)	2時間03分54秒
2位	カミール・ボヌー(ソリューションテック NIPPO ラーリ)	+32秒
3位	エドワルド・セプルベダ(リーニン スター)	+51秒

個人総合時間賞(グリーンジャージ)

1位	マッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)	11時間04分28秒
2位	カミール・ボヌー(ソリューションテック NIPPO ラーリ)	+59秒
3位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル(VC福岡)	+1分02秒

個人総合ポイント賞(ブルージャージ)

1位	トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO)	64pt
2位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル(VC福岡)	48pt
3位	ニコロ・ガリッポ (TEAM UKYO)	45pt

個人総合山岳賞(レッドジャージ)

1位	山本元喜(キナンレーシングチーム)	26pt
2位	フランチェスコ・カロロ(スワット クラブ)	23pt
3位	ジャコモ・ガラヴァーリャ(スワット クラブ)	16pt

個人総合新人賞(ホワイトジャージ)

1位	ウィル・ヒース(シーキャッシュ X ボディラップ)
2位	島崎将男(日本ナショナルチーム)
3位	オスカー・ギャラガー(シーキャッシュ X ボディラップ)

RTA賞

島崎将男(日本ナショナルチーム)

個人総合山岳賞(レッドジャージ) 山本元喜(キナンレーシングチーム) のコメント

新人賞(ホワイトジャージ) ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ) のコメント

今日は疲労を残さないように意識して走りました。キナンとしては明日は山岳賞に絡まない選手を選びに送り込み、山岳ポイントを潰せればいいのですが、レイン・タラマエも力を貸してくれるはず。そうでなければ、自分が逃げに入ってもたもがきます。明日逃げでスワット クラブ勢と直接対決になるなら、少なくとも一回は先頭通過しないといけないですね。

あざみラインの厳しさは昨年学んだつもりですが、その前の周回コースのハードさは忘れていました。あざみラインに入った時点で脚に疲労を感じていました。チームメイトは登り口まで私とマシュー・グリーンウッドを牽引してくれたので、あとは自分次第でした。チームメイトには感謝の気持ちでいっぱいです。

7th Stage >>>>>> AMANO SAGAMIHARA

107.5km

AMANO 相模原ステージ

- 場所：神奈川県相模原市 ●天候：晴れ 30℃
- 来場者数：24,000 人 ●ステージアンバサダー：初山 翔
- ホームステージチーム：TEAM UKYO



AMANO 相模原ステージ優勝 オスカー・ギャラガー(シーキャッシュ X ボディラップ)

19歳オスカー・ギャラガーがTOJ初勝利 各賞争いは最終東京ステージへ

第7ステージAMANO 相模原ステージは、神奈川県相模原市を舞台に107.5kmで開催された。総合2位と3位がわずか3秒差、山岳争いも僅差という状況の中、各賞の行方を左右する重要なステージとなった。レース序盤には11名による大規模な逃げグループが形成され、ポイント賞リーダーのトンマーゾ・ダーティ(Team UKYO)や山岳賞を狙うフランチェスコ・カロロ(スワット クラブ)が積極的に動いた。ダーティは全ての中間スプリントポイントを先頭通過し、ポイント賞争いで大きくリードを拡大。一方のカロロも山岳ポイントを確実に獲得し、レッドジャージの獲得を決定的なものとした。終盤にはダーティが単独アタックを仕掛けるなど逃げ切りを目指したが、残り1kmで吸収され、勝負は集団ス

プリントへとつれ込んだ。

最後は19歳のオスカー・ギャラガー(シーキャッシュ X ボディラップ)が力強いスプリントを見せ、TOJ初優勝を達成。いなベステージ3位、飯田ステージ4位とあと一歩届かなかった若手が、ついに大きな成果を手にした。総合首位のマッテオ・ファップロと2位カミール・ボヌーのソリューションテック NIPPO ラーリ勢は安全にフィニッシュし、総合ワンツー体制を維持。ポイント賞はダーティ、山岳賞はカロロ、新人賞はウィル・ヒース(シーキャッシュ X ボディラップ)が保持し、大会の全タイトル争いは最終日のSPEEDチャンネル 東京ステージへ持ち越されることとなった。

ステージ優勝 オスカー・ギャラガー (シーキャッシュ X ボディラップ) のコメント

数日前(綿半 信州飯田ステージ)は勝ったと思って両手を上げたけれど、実際はステージ4位でした。だから今日は、ある種の敬意から、両手を上げられませんでした。でもこここのところ勝利に近いところだったので、今日は勝てて嬉しいです。残り2周からペースが上がり、周りの選手たちが苦しんでいるのを見て、今日はいけると自信を持ったんです。将来はワールドチームの育成チームに入り、より成長していければと思います。

個人総合時間賞(グリーンジャージ) マッテオ・ファップロ (ソリューションテック NIPPO ラーリ) のコメント

チームで集団をコントロールし、上手く一日を終えることができました。コースはハードで、最後はペースも上がりストレスを覚えました。チームは強く、問題はありませんでした。明日はスプリントのステージになることを望みます。その場合は、チームのスプリンターで勝利も狙います。

個人総合ポイント賞(ブルージャージ) トンマーゾ・ダーティ (TEAM UKYO) のコメント

今日はスプリントポイントを可能な限り獲得することを狙って逃げに乗りました。最後は集団が迫ってきたのでステージ優勝を狙って全開で逃げましたが、一人では力が悪かったです。集団に追いつかれた後はできるだけチームメイトのための走りをしました。脚の調子は良かったのですが、今日はギャンブルに少し負けましたね。



▲ステージアシタダー 初山翔氏



▲ホームステージチーム TEAM UKYO



▲スターター 相模原ステージ実行委員会 委員長 勝又修氏



▲セレモニールン参加者



▲相模原市副市長 菅野克彦氏とステージ優勝 オスカー・ギャラガー(シーキャッシュ X ボディラップ)



▲相模原市長 本村賢太郎氏と個人総合時間賞マッテオ・ファブプロ(ソリュションテック NIPPO ラーリ)



▲相模原市緑区長 椎橋薫氏とポイント賞 トンマーゾ・ダーティ(Team UKYO)



▲愛川町長 小野澤豊氏と山岳賞 フランчесコ・カロロ(スワット クラブ)



▲清川村長 岩澤吉美氏と新人賞 ウィル・ヒース(シーキャッシュ X ボディラップ)



▲RTA 賞 ロード・トゥ・ラヴニールプロジェクトマネージャー 浅田顕氏と梅澤幹太(日本ナショナルチーム)



▲沿道の和太鼓応援



▲宮ヶ瀬湖畔を走る選手たち

第7ステージ順位

1位	オスカー・ギャラガー(シーキャッシュ X ボディラップ)	2時間23分02秒
2位	レオネル・キンテロ・アルテアガ(ヴィクトワール広島)	+1秒
3位	ティレン・フィンクスト(ソリュションテック NIPPO ラーリ)	+1秒

個人総合時間賞(グリーンジャージ)

1位	マッテオ・ファブプロ(ソリュションテック NIPPO ラーリ)	13時間27分35秒
2位	カミール・ボヌー(ソリュションテック NIPPO ラーリ)	+55秒
3位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル(VC福岡)	+58秒

個人総合ポイント賞(ブルージャージ)

1位	トンマーゾ・ダーティ(Team UKYO)	79pt
2位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル(VC福岡)	62pt
3位	オスカー・ギャラガー(シーキャッシュ X ボディラップ)	55pt

個人総合山岳賞(レッドジャージ)

1位	フランчесコ・カロロ(スワット クラブ)	33pt
2位	山本元喜(キナンレーシングチーム)	26pt
3位	ジャコモ・ガラヴァーリヤ(スワット クラブ)	20pt

個人総合新人賞(ホワイトジャージ)

1位	ウィル・ヒース(シーキャッシュ X ボディラップ)
2位	島崎将男(日本ナショナルチーム)
3位	オスカー・ギャラガー(シーキャッシュ X ボディラップ)

RTA賞

梅澤幹太(日本ナショナルチーム)

個人総合山岳賞(レッドジャージ)
フランчесコ・カロロ
(スワット クラブ)のコメント

新人賞(ホワイトジャージ)
ウィル・ヒース
(シーキャッシュ X ボディラップ)のコメント

今日は逃げに乗らないといけない日でした。ジャージを獲得するためには2回、KOMを先頭通過する必要があったからです。スタートから逃げを試み、ガラヴァーリヤや他チームの選手とも協調がとれ、KOMポイントを2回先頭通過できました。目標が達成できて嬉しく思います。(5円玉をネックレスにしていることについて)昨年、ツール・ド・おきなわに参戦した際の5日間の旅がとっても楽しくて、そのことを忘れないために『5』のコインを身につけているんです。でも『ご縁がある』ということとは知りませんでした。教えてくれてありがとうございます！

オスカー(・ギャラガー)とは今年一緒に過ごす時間が長いので、彼の優勝を嬉しく思います。今日はNIPPOが集団をコントロールして前半は穏やかでしたが、他のステージ同様に終盤にかけてペースがものすごく速くなりました。ツアーの終盤で身体が空っぽになっていますが、なんとか食らいつきました。タイム差もあるので明日の東京で、このホワイトジャージを着ることができるのが楽しみです。

8th Stage >>> **SPEED CHANNEL TOKYO**

104.0km **SPEEDチャンネル 東京ステージ**

- 場所：東京都品川区～大田区 ●天候：曇りのち晴れ 29℃
- 来場者数：35,000 人 ●ステージアンバサダー：浅田 顕
- ホームステージチーム：ロード・トゥ・ラヴニール



SPEEDチャンネル 東京ステージ優勝 ルーカス・カールステンゼン(キナンレーシングチーム)

ルーカス・カールステンゼンが東京を制す マッテオ・ファップロが個人総合優勝でTOJ2026が閉幕

ツアー・オブ・ジャパン2026最終第8ステージSPEEDチャンネル 東京ステージは、東京・大井埠頭の周回コースで開催された。大会の総合成績がほぼ固まる中、ポイント賞争いやステージ優勝を狙う選手たちによる積極的なレースが展開された。序盤にはフランチェスコ・カロロ(スワット クラブ)ら5名が逃げグループを形成し、一時は1分20秒以上のリードを築く。しかし中盤以降はメイン集団がペースを上げ、総合各賞を巡る駆け引きが繰り広げられた。

ポイント賞ジャージを着るトンマーゾ・ダーティ(Team UKYO)は積極的にアタックを仕掛け、中間スプリント争いでも主導権を握ったが、総合順位に変動を与えるまでには至らなかった。終盤にはジャコモ・ガラヴァーリヤ

(スワット クラブ)らによるアタックも見られたものの、集団は逃げを許さず、勝負は大会最後の集団スプリントへ持ち込まれた。

最後はルーカス・カールステンゼン(キナンレーシングチーム)が力強いスプリントで勝利を飾り、チームに今大会最大の成果をもたらした。一方、総合首位を守り続けたマッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)は無事にフィニッシュし、個人総合時間賞を獲得。チームメイトのカミール・ボヌーとともに総合ワンツーを達成した。ポイント賞はダーティ、山岳賞はカロロ、新人賞はウィル・ヒースが獲得し、8日間にわたるツアー・オブ・ジャパン2026は幕を閉じた。日本人最高位は総合10位の留目夕陽(愛三工業レーシングチーム)であった。

ステージ優勝
ルーカス・カールステンゼン
(キナンレーシングチーム)のコメント

この一週間はずっと苦しんできました。昨日は何かできるかと思ったんですが難しく、今日の東京が大きな目標になりました。今日レース中にした唯一のことはチームメイトの後ろで休むことでした。残り700mでは20番手くらいにつけていて、追いつけないとならず、残り500mで一度踏み出しました。そして残り300mでスプリントを開始する必要がありました。遠い、と思いましたけどもう踏むしかなく、おそらく30秒スプリントして、最後の5秒はただ粘っただけでした。勝てたかわからなかったんですが、勝ててよかったです。



▲東京ステージアンバサダー 浅田顕氏



▲スターター TOJ組織委員会会長 田中栄作



▲セレモニーラン参加者



▲警視庁 交通部 交通総務課 巡査部長／自転車安全利用指導啓発隊・BEEMS隊員 半田裕規氏と警視庁 交通部 交通総務課主事／自転車安全利用指導啓発隊・BEEMS隊員 五十嵐千鶴氏



▲株式会社SPEEDチャンネル 代表取締役社長 渡邊実氏と東京ステージ優勝 ルーカス・カールステンゼン(キナレーシングチーム)



▲自転車月間推進協議会会長 小泉昭男と個人総合時間賞 マッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)



▲株式会社チャリ・ロト取締役 森田哲史氏とポイント賞 トンマーゾ・ダーティ(Team UKYO)



▲サイクルネット株式会社 取締役／GachinkoCycleTV プロデューサー 吉田隼人氏と山岳賞 フランチェスコ・カロロ(スワット クラブ)



▲AliExpressジャパンマーケティング部 部長 シェリー・シ氏と新人賞 ウィル・ヒース(シーキャッシュ X ボディラップ)



▲東京都スポーツ推進本部 国際スポーツ事業部 自転車活用推進担当課長 小野塚直哉氏と団体総合時間賞 トレンガヌ サイクリングチーム



▲AliExpressジャパン マーケティング部 部長 シェリー・シ氏と日本人最優秀ライダー賞 留目夕陽(愛三工業レーシングチーム)



▲RTA賞 ロード・トゥ・ラヴニールプロジェクトマネージャー 浅田顕氏と住田 悠人(VC福岡)

第8ステージ順位

1位	ルーカス・カールステンゼン(キナレーシングチーム)	2時間11分49秒
2位	アレクサンダー・サルビー(リーニン スター)	+0秒
3位	ティレン・フィンクスト(ソリューションテック NIPPO ラーリ)	+0秒



個人総合山岳賞(レッドジャージ)

1位	フランチェスコ・カロロ(スワット クラブ)	33pt
2位	山本元喜(キナレーシングチーム)	26pt
3位	ジャコモ・ガラヴァーリヤ(スワット クラブ)	20pt

個人総合時間賞(グリーンジャージ)

1位	マッテオ・ファップロ(ソリューションテック NIPPO ラーリ)	15時間39分24秒
2位	カミール・ボヌー(ソリューションテック NIPPO ラーリ)	+55秒
3位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル(VC福岡)	+57秒



個人総合新人賞(ホワイトジャージ)

1位	ウィル・ヒース(シーキャッシュ X ボディラップ)
2位	オスカー・ギャラガー(シーキャッシュ X ボディラップ)
3位	梅澤幹太(日本ナショナルチーム)



個人総合ポイント賞(ブルージャージ)

1位	トンマーゾ・ダーティ(Team UKYO)	79pt
2位	ベンジャミ・ブラデス・レヴェルテル(VC福岡)	67pt
3位	ニコロ・ガリッポ(Team UKYO)	58pt



団体総合時間賞

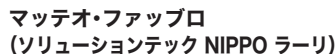
1位	トレンガヌ サイクリングチーム
----	-----------------

RTA賞

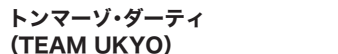
住田悠人(VC福岡)

AliExpress 日本人最優秀ライダー賞

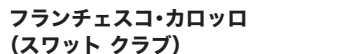
留目夕陽(愛三工業レーシングチーム)



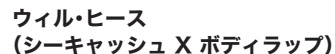
**個人総合ポイント賞
(ブルージャージ)**



**個人総合山岳賞
(レッドジャージ)**



個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)



団体総合時間賞

トレンガヌ サイクリングチーム(コメント:監督 モハド・サイフル・アヌアル・アズィズ)

全体として、今年のツアー・オブ・ジャパンでの成果には大変満足しています。当初の目標はステージ表彰台でしたが、競争が激しかったため実現は困難でした。そこで、我々のトップクライマーたちがクイーンステージである富士山ステージで最高のパフォーマンスを発揮することに注力しました。その結果、2名がトップ10入りを果たし、チーム総合優勝を勝ち取ることができました。この受賞は、ツアー期間を通じてチーム全員が示した努力と献身的な取り組みの賜物です。日本国内のファンの皆様、スポンサーの皆様、そして家族の皆様のお絶え間ないご支援に心より感謝申し上げます。また、私たちを招待してくださったTOJ組織委員会にも感謝いたします。

個人総合時間賞

22

順位	選手名	チーム	年齢	タイム	タイム差
54	當原 隼人	愛三工業レーシングチーム	28	16:31'00"	51'36"
55	マッズ・アナスン	スワット クラブ	25	16:35'23"	55'59"
56	チョン・ウホ	ソウル サイクリングチーム	28	16:35'29"	56'05"
57	ムハンマド・シャフミル・アイマン・アブド・ハリム	トレンガヌ サイクリングチーム	26	16:37'22"	57'58"
58	吉田 奏太	日本ナショナルチーム	18	16:39'47"	1:00'23"
59	グレアム・フリズリー	シーキャッシュ X ボディラップ	25	16:41'05"	1:01'41"
60	山本 元喜	キナンレーシングチーム	34	16:41'16"	1:01'52"
61	高梨 万里王	レバンテフジ静岡	24	16:41'46"	1:02'22"
62	ルーカス・カールステンゼン	キナンレーシングチーム	31	16:41'48"	1:02'24"
63	フォン・チュンカイ／馮 俊凱	Astemo 宇都宮ブリッツェン	37	16:42'35"	1:03'11"
64	三浦 一真	日本ナショナルチーム	19	16:43'27"	1:04'03"
65	アレクサンダー・サルビー	リーニン スター	27	16:43'27"	1:04'03"
66	ニウ・イーグイ／牛益達	リーニン スター	31	16:43'40"	1:04'16"
67	住田 悠人	VC福岡	18	16:47'02"	1:07'38"
68	渡邊 和貴	シマノレーシングチーム	23	16:51'00"	1:11'36"
69	武山 晃輔	Astemo 宇都宮ブリッツェン	28	16:51'19"	1:11'55"
70	ミン・キョンホ	ソウル サイクリングチーム	29	16:52'03"	1:12'39"
71	リアム・ウォルシュ	シーキャッシュ X ボディラップ	24	16:53'49"	1:14'25"
72	シーム・キスコネン	レバンテフジ静岡	29	16:56'38"	1:17'14"

ポイント賞

順位	選手名	チーム	堺	京都	いなべ	大鹿	信州飯田	富士山	相模原	東京	Total
1	トンマーゾ・ダーティ	TEAM UKYO	10	25	4	0	25	0	15	0	79
2	ベンジャミ・プラデス・レヴェルテル	VC福岡	0	20	20	0	8	0	14	5	67
3	ニコロ・ガリッポ	TEAM UKYO	0	8	25	0	12	0	10	3	58
4	オスカー・ギャラガー	シーキャッシュ X ボディラップ	0	0	16	0	14	0	25	0	55
5	ティレン・フィンクスト	ソリューションテック NIPPO ラーリ	0	9	4	0	0	0	16	16	45
6	フェデリコ・イアコモーニ	TEAM UKYO	2	16	14	0	7	0	4	0	43
7	ファーガス・ブラウニング	トレンガヌ サイクリングチーム	5	0	12	0	9	8	5	0	39
8	ニルス・シンシェック	リーニン スター	0	0	10	0	16	5	6	0	37
9	レオネル・キンテロ・アルテアガ	ヴィクトワール広島	0	7	0	0	10	0	20	0	37
10	アレクサンダー・サルビー	リーニン スター	0	0	0	0	0	0	12	20	32

山岳賞

順位	選手名	チーム	京都	いなべ	大鹿	信州飯田	富士山	相模原	Total
1	フランチェスコ・カロッロ	スワット クラブ	0	8	0	15	0	10	33
2	山本 元喜	キナンレーシングチーム	1	8	0	17	0	0	26
3	ジャコモ・ガラヴァーリャ	スワット クラブ	10	0	0	6	0	4	20
4	マッテオ・ファップロ	ソリューションテック NIPPO ラーリ	0	0	0	0	15	0	15
5	ニルス・シンシェック	リーニン スター	0	1	0	7	0	4	12
6	カミール・ボヌー	ソリューションテック NIPPO ラーリ	0	0	0	0	12	0	12
7	エドアルド・セブルペダ	リーニン スター	0	0	0	0	10	0	10
8	ベンジャミ・プラデス・レヴェルテル	VC福岡	0	0	0	0	8	0	8
9	ファーガス・ブラウニング	トレンガヌ サイクリングチーム	0	0	0	0	6	0	6
10	ニコロ・ガリッポ	TEAM UKYO	3	0	0	0	3	0	6

新人賞

順位	選手名	チーム	タイム	タイム差
1	ウィル・ヒース	シーキャッシュ X ボディラップ	15:45'46"	0'00"
2	オスカー・ギャラガー	シーキャッシュ X ボディラップ	16:09'24"	23'38"
3	梅澤 幹太	日本ナショナルチーム	16:17'27"	31'41"
4	新藤 大翔	日本ナショナルチーム	16:24'49"	39'03"
5	吉田 奏太	日本ナショナルチーム	16:39'47"	54'01"
6	三浦 一真	日本ナショナルチーム	16:43'27"	57'41"
7	住田 悠人	日本ナショナルチーム	16:47'02"	1:01'16"

団体総合時間賞

順位	チーム	タイム	タイム差	順位	チーム	タイム	タイム差
1	トレンガヌ サイクリングチーム	46:32'43"	0'00"	9	リーニン スター	47:06'56"	34'13"
2	TEAM UKYO	46:33'19"	0'36"	10	愛三工業レーシングチーム	47:20'32"	47'49"
3	ソリューションテック NIPPO ラーリ	46:40'27"	7'44"	11	Astemo 宇都宮ブリッツェン	47:23'13"	50'30"
4	VC福岡	46:43'29"	10'46"	12	日本ナショナルチーム	47:50'11"	1:17'28"
5	ヴィクトワール広島	46:53'47"	21'04"	13	キナンレーシングチーム	48:02'52"	1:30'09"
6	シーキャッシュ X ボディラップ	47:02'52"	30'09"	-	ソウル サイクリングチーム		
7	シマノレーシングチーム	47:05'57"	33'14"	-	レバンテフジ静岡		
8	スワット クラブ	47:06'51"	34'08"				



Astemo TOJ Kids

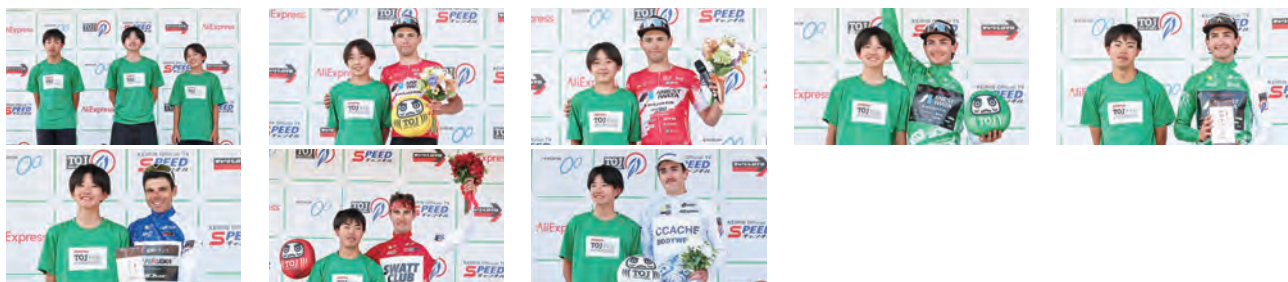
SAKAI 第1ステージ チャリ・ロト 堺



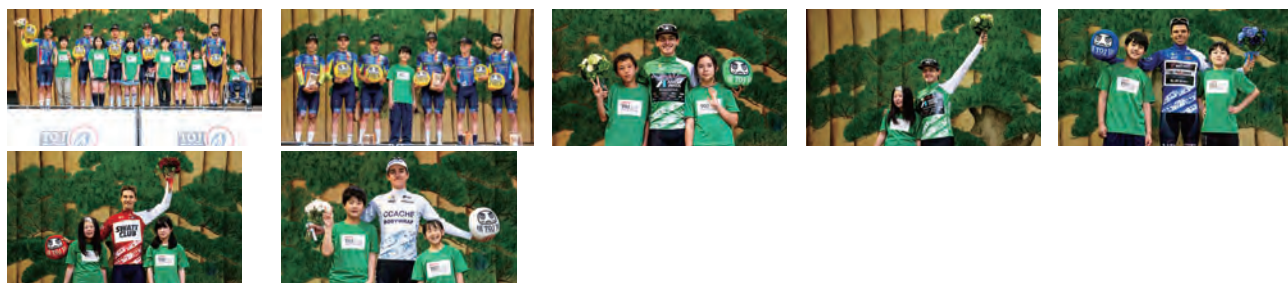
KYOTO 第2ステージ JPF 京都



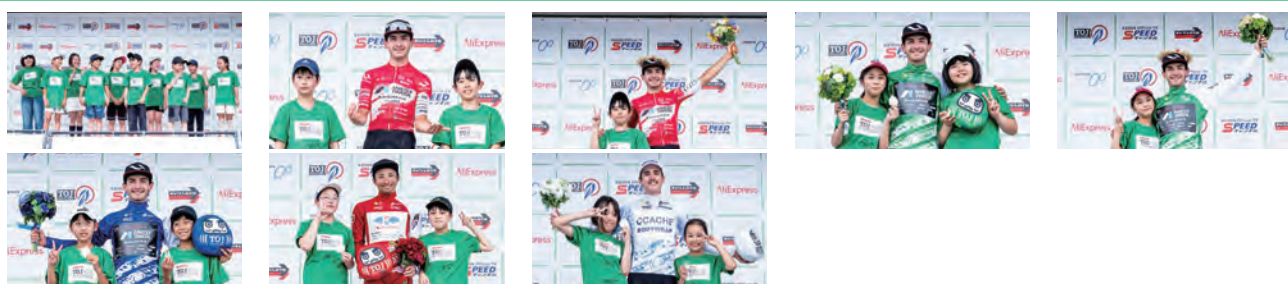
INABE 第3ステージ いなべ



OOSHIBA 第4ステージ Astemo 大鹿



SHINSHU IIDA 第5ステージ 綿半 信州飯田



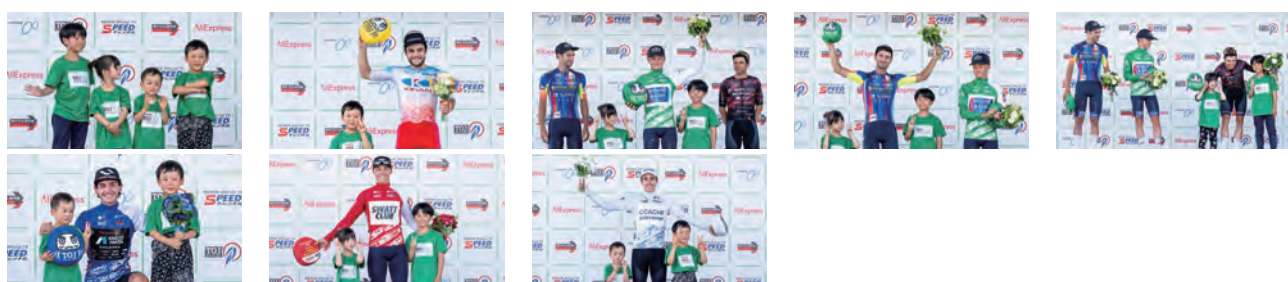
FUJISAN 第6ステージ スルガ銀行 富士山



SAGAMIHARA 第7ステージ AMANO 相模原



TOKYO 第8ステージ SPEEDチャンネル 東京





TOJ 2026 Webサイト

[illegible]

YouTube



ツアーオブジャパン 大鹿村で初レース
自然豊かなコース 駆け抜ける

ツアーオブジャパン
第4ステージ Astemo 大鹿

5月28日 大鹿 NBS長野放送
ツアー・オブ・ジャパン大鹿ステージ模様



5月30日 信州飯田 テレビ信州
ツアー・オブ・ジャパン信州飯田ステージ模様



6月1日 信州飯田 信濃 毎日新聞社
ツアー・オブ・ジャパン信州飯田ステージ模様



6月2日 堺 中国放送
ツアー・オブ・ジャパンヴィクトワール広島活動模様



6月5日 京都 KCN京都
ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ模様

放送日	番組名	ステージ	放送内容	放送局	放送波	エリア
5月27日	ニュース	いなべ	ツアー・オブ・ジャパンいなべステージ模様	シーティーワイ	ケーブル	三重県北勢
5月27日	ニュース	大鹿	ツアー・オブ・ジャパン大鹿ステージ模様	長野朝日放送	地上	長野県
5月28日	ニュース	大鹿	ツアー・オブ・ジャパン大鹿ステージ模様	NBS長野放送	地上波	長野県
5月29日	ニュース	富士山	ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージ模様	テレビ静岡	地上	静岡県
5月29日	ニュース	富士山	ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージ模様	FNNプライムオンライン	YouTube	静岡県
5月30日	ニュース	信州飯田	ツアー・オブ・ジャパン信州飯田ステージ模様	テレビ信州	地上波	長野県
6月1日	ニュース	信州飯田	ツアー・オブ・ジャパン信州飯田ステージ模様	信濃 毎日新聞社	YouTube	長野県
6月2日	ニュース	堺	ツアー・オブ・ジャパンヴィクトワール広島活動模様	中国放送	地上波	広島県
6月5日	ニュース	京都	ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ模様	KCN京都	ケーブル	京都府

ラジオ

放送日	番組名	ステージ	放送内容	放送局	放送波	エリア
5月16,17日	サイクリスト・ステーション ツアー・オブ・ジャパン	全体	レース告知	FM11局	FM	全国11局
5月23,24日	サイクリスト・ステーション ツアー・オブ・ジャパン	全体	レース告知	FM11局	FM	全国11局
5月26日	いなべステージレース生放送	いなべ	いなべステージ生放送	いなべFM	FM	ローカル
5月28日	信州飯田ステージレース生放送	信州飯田	信州飯田ステージレース生放送	飯田FM	FM	ローカル
5月30日	エフエムさがみ	相模原	相模原ステージスタート生放送	FM相模原	FM	ローカル

雑誌・新聞



八重洲出版社 サイクスポーツ8月号



サイクスポーツ8月号誌面



サイクルビジネス7月号



サイクルビジネス7月号誌面



日刊建設工業新聞 5月27日掲載



産経新聞夕刊 6月23日掲載



5月23日(土)オンライン前日会見



▲オンライン前日会見参加選手 トンマーズ・ダーティ (TEAM UKYO)、橋川丈 (キナンレーシングチーム)、留目 夕陽 (愛三工業レーシングチーム)、ウィル・ヒース (シーキャッシュ X ボディラップ)



▲目入れするトンマーズ・ダーティ(Team UKYO)



▲ダルマに目入れした会見参加選手

5月23日(土)各種会議関係



▲ライセンスコントロールを受ける水谷監督



▲ 監 督 会 議



▲コミセールパネルメンバー 岩佐千穂氏



▲大会ディレクター 村山吾郎



▲堺ステージ実行委員会 委員長 斧隆夫氏



▲ドライバーズ・ブリーフィングの様子



ツアー・オブ・ジャパン 2026 >>>>>>>>>>

レース総獲得標高



12,195 km

レース総距離



639.1 Km



総通過都府県数

7
prefectures



TOJキッズ総登壇者数



42人

総観客数

約 **205,000** 人

11
municipalities

通過市区町村数

レースに関わった
総地方自治体数

11
local
governments



※前身の国際サイクルロードレース大会を含む



参加選手出身国数

参加チーム本拠地国



Japan



Italy



Malaysia



Australia



China



South Korea



Uzbekistan

参加チーム数：16 チーム

出場選手合計数：96 名

161
sponsors

総スポンサー数



合計審判数

270
members

前年比約60%UP

1,700,000
View

8ステージライブ配信合計
インプレッション数



LIVE!

2026
NEW

自転車ロードレース

初心者向けサイマル放送ライブ配信

6月9日時点



8ステージ合計同時接続回数

5,636回

8ステージ合計再生数

約54,000回

合計インプレッション数

約74万回 (6月30日時点)

今までのBPAJchでのライブ配信は自転車ロードレースに知識のある人が視聴している傾向であったが、元プロ選手の解説と【初心者向け】という観点からのお話はレース用語やルールなども丁寧に説明しつつ、チームの作戦や展開の動きもその都度解説したことは新たな自転車ロードレースファンへのアプローチとなった。

数字で見る ツアー・オブ・ジャパン 2026

5.24 Sun 13:30 START
Sun, 24 May 2026 | 13:30 JST

第1ステージ **SAKAI**
チャリ・ロト 堺ステージ

#1 **LIVE**

TOJ2026 チャリ・ロト 堺ステージライブ配信／動画分析情報

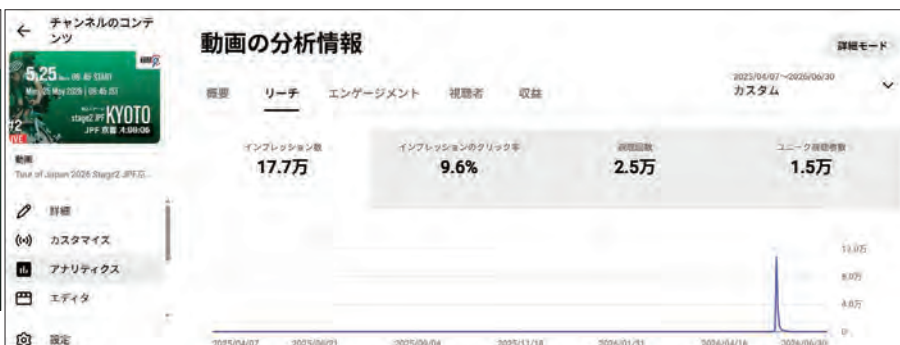


5.25 Mon 09:45 START
Mon, 25 May 2026 | 09:45 JST

第2ステージ **KYOTO**
stage2 JPF 京都ステージ

#2 **LIVE**

TOJ2026 JPF 京都ステージライブ配信／動画分析情報



5.26 Tue 09:30 START
Tue, 26 May 2026 | 09:30 JST

第3ステージ **INABE**
stage3 いなベステージ

#3 **LIVE**

TOJ2026 いなベステージライブ配信／動画分析情報



5.27 Wed 10:00 START
Wed, 27 May 2026 | 10:00 JST

第4ステージ **OOSHIIKA**
stage4 Astemo 大鹿ステージ

#4 **LIVE**

TOJ2026 Astemo 大鹿ステージライブ配信／動画分析情報



5.28 Thu 10:00 START
Thu, 28 May 2026 | 10:00 JST

第5ステージ **SHINSHU IIDA**
stage5 綿半 信州飯田ステージ

#5 **LIVE**

TOJ2026 綿半 信州飯田ステージライブ配信／動画分析情報





TOJ2026 スルガ銀行 富士山ステージライブ配信／動画分析情報



TOJ2026 AMANO 相模原ステージライブ配信／動画分析情報



TOJ2026 SPEEDチャンネル東京 ステージライブ配信／動画分析情報



TOJ2026 大会前日記者会見／動画分析情報



TOJ2026 公式記者発表／動画分析情報



TOJ2026 Instagramアカウント投稿告知



TOJ2026 Instagramアカウント投稿告知











<https://toj.co.jp/2026>

Official Photographers 田中 苑子/辻 啓
Official Writer 小俣 雄風太